いきいきまえばし人

前橋東交通安全協会女性部長
太刀川 勲江さん・75歳
天川町

交通事故死亡者ゼロを目指して

前橋東交通安全協会の女性部長として、長年交通安全の啓発活動をしている太刀川さん。この活動を始めて今年で36年。仲間たちと交差点やショッピングセンター、学校などに出向き、ドライバーや買い物客、子どもたちに交通安全を呼び掛けている。

「活動を始めた頃は、市内を暴走族が走り回っているような時代でした。そんな様子を見て、微力ながら交通安全のお手伝いをしたいと思い、地域の友人と女性部に入ったのが活動のきっかけです」と笑顔で話す。

ボランティア活動を長く続ける秘けつは、同じ目的を持った仲間たちと楽しく活動に取り組むことだと語る。啓発活動の一環として配布しているマスコットの「まゆ人形」は、そうした仲間たちと一緒に作った手作り人形だ。

「最近は特に高齢ドライバーによる交通事故の報道が増えています。自分たちの暮らす地域から悲惨な交通事故が少しでも減るようにとの願いを込めて、手作りのまゆ人形を啓発活動で配布しています」

これからも交通事故死亡者ゼロを目指して、ボランティア活動を続けていきたいと話す太刀川さん。まゆ人形に願いを込めて地域の交通安全活動を支えていく。

萩原朔美 河畔奇譚

vol.16

園前橋文学館
☎ 027-235-8011

前橋文学館長の萩原朔美が著名人と対談。さまざまな領域で活躍する館長が各界の人々とあれこれ語り合います。今回は住友文彦アーツ前橋館長との対談4回目をお届けします。

●赤城山で情操教育

萩原（以下H） 最近、ニュースを見ていると、異常な事件が多くない？介護の現場で殺人事件が起きたなんて話も聞いたし、ひどい事件がこれからもっと増えてしまいそうな、嫌な予感がするよ。

住友（以下S） 医療や福祉は人間相手の最たる仕事ですよね。仕事をする上で情操教育がどれほど大切か。もっと声を大にして言いたい。前橋は情操教育に力を入れると宣言したら、それだけで移住してくる人も増えると思う。

H 今の学校の管理教育に不満を持っている人は結構いて、学校を目的に移住する人もいるよね。

S 鳥取県では、移住政策で自由な校風の学校を作った例があるようです。群馬県にもこういう学校があれば、首都圏からも近いし、選ばれる土地になりそうな気がしますけどね。

H それなら、赤城山の廃校を使って、美術館と文学館で学校を開校しようよ。最初は夏休みの時期に。自由な授業をやって、作家も芸術家もいっぱい集めて。昔でいう自由学園みたいにしてさ。

S 赤城山はスローシティだけじゃなく、白樺派を含めて文化史として見ても聖地ですしね。

H そうそう。その学校では、美術と文字表現、身体表現を同時に見られる場所にしよう。文学者や芸術家も赤城山に通っていた歴史があるんだし、実現したら面白そうだよね。（了）

クローズアップ CLOSE UP

前橋の未来の交通を考えるシンポジウム

歴史まちづくりシンポジウム

道の駅シンポジウム

豊かな前橋へ意見交換

11月は3つのシンポジウムを開催しました。道の駅、歴史まちづくり、前橋の交通の未来を考えるシンポジウム。各シンポジウムに有識者が登壇し講演を行った他、ディスカッションも実施。市民らと前橋を豊かにするためのアイディアを共有しました。

ザスパ通じて国際交流

11月17日、ザスパクサツ群馬の本市冠試合を開催。今回は、南スーダンの五輪選手来日を記念したイベントを実施。南スーダンブースでの国の紹介や、応援Tシャツを販売しました。ザスパは惜しくも負けてしまいましたが、観客と同国選手から熱い声援が送られました。

まちの中でごみ拾い

秋のMサポクリーン活動を11月17日に開催。150人を超えるボランティアの参加者が、まちなかのごみ拾いのために集まりました。歩道にはたくさんの落ち葉やごみが。朝日が差し込む中、手際のいい作業であっという間にきれいなまちなかに元通りになりました。